第 2018-13 号

恵みと真理のニュース

2018 年 4 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様は旦那が事業を立ち上げて良く運営するように助けてくださり、教会で熱心に奉仕する信仰生活をするように恵みを与えてくださいました

私はカトリック教会に通いましたが結婚してからプロテスタント教会に変えました。熱心にイエス様を信じ仕える姑に許可を得るため約束したからです。１９９１年６月に恵と真理教会で結婚式を挙げました。しばらく間は教会の雰囲気と礼拝になれなかったですが、続けて説教を聞きながら正しい救いと聖書感を確立するようになり信仰が深くなりました。児童区域長を始め成人区域長、教会学校の教師などの職分を受けて奉仕しながら神様の信仰生活のが楽しくて幸せでした。

女性奉仕連合会の奉仕部長で奉仕するとき、保険会社に勤めた旦那が進級を控えていました。旦那が進級するため外で営業を担当しながら設計士たちを管理する支店長の経歴が必要でした。ところが、私が考えると学校先生のような気性の旦那に営業することは適性と体質に合わなかったです。また、営業ができないと経済的な問題もできるし、職員達を統率するためにはたまにお酒も飲んだりカラオケも行かないといけないのが心配でした。旦那は世の人のようではなくカレブを導いてくださったように旦那が踏む土地を業で与えてくださいと祈りました。

2006年1月に旦那が支店長で発令を受けました。それで、旦那のためもっと切に祈っているとき、ある日は考えなかった祈りしました。旦那が独立して事業を運営するように助けてくださいと祈りでした。神様のみ旨が知りたかったです。党会長の牧師にお目にかかって祝福祈りを受けました。牧師が祈る時に私の体が熱くなり神様が答えてくださる確信が出来ました。家に帰って来る間ずっと喜びが溢れました。

私はすぐ神様が旦那に事業を与えてくださると思いました。しかし、私の考えと違って神様は旦那に5年間支店長として働くようにさせました。その代わり、良い実績を出して本部の団長まで高めてくださいました。しかし、ある支店長が事故を起こして旦那の職員の管理をよくできなかったという理由で懲戒をされました。子供たちは大学と高校に通っていて一番支出が多い時でしたが給料まで減って私の心は苦痛でした。その中で会社で初めて名誉退職の再度を試行して旦那にも圧力がありました。旦那が会社の要求に順応しないとすぐ団長からインチョンのジュアンとブチョン地域の設計士達を管理する部署で移されました。旦那はある日はインチョン、またある日はブチョンで行き来して大変に勤務しないといけなかったし給料も減りました。遠い地方で行かなかったのも感謝しました。神様に熱心に祈ったがいろいろと大変な状況になりました。

業務を担えるのが大変だった旦那がある時からよく怒って私に教会の奉仕を減らして職業を探すのを願いました。旦那は25年間保険会社に勤務しながら ほとんどが主婦設計士達がお金を稼ぐため熱心に働いている姿を見てきたからだと思います。私はその状況が神様が私をテストをすると考えました。“信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。”といった御言葉をもって祈りました。むしろ、もっと多くの時間伝道して奉仕して主に近づきました。教会で女性奉仕連合会の会長の重い責任が任されました。全身全力して担えるのが大変な状況でしたが、神様の約束を信頼して従順しました。感謝して最善を尽くすため努力しました。

ある日、旦那が子供たちと共に車の中で“生きるのが本当に大変だな”と愚痴話をしました。そして、まもなく、旦那の会社で大きいリストラをして800人くらいがいっきに名誉退職されました。職場で不合理な処置に反発してもうやめると愚痴話をした多くの保険設計士達が旦那に事業をしてから自分たちを連れて行ってくださいと頼みました。内勤職員との集いでもう会社と戦うのを辞めて退職すると話したら能力がある後輩が無条件に旦那をついていとしました。当時に彼が旦那に話したのが、私を連れて行ってください。と頼んだのが今考えてみても不思議です 。

その後、仕事がとても速く進行されました。代理店を作るなら資金も多く必要だし、共に取り扱う自動車と家財損害保険は生命保険だけ知っている旦那には不慣れな業務でした。どころが、その後輩は損害保険もよく知っていました。代理店を作っても共にする設計士を探すのが容易ではないことが現実ですが、旦那は大変ではなかったです。旦那が会社を辞めたら私たちの家族はどう生きるのかと心配しているとき、旦那が一人の力でどうにかできないから両手を出して神様の前に出て神様の助けを求めた時、神様が予備してくださり一瀉千里で進行してくださいました。神様が希望を与え祈るようにしてくださって党会長の牧師が祝福してくださった通り成し遂げられました。旦那は今もその時を思い出しながら“神様が全て成し遂げてくださいました。”と言います。

旦那の事業場に13人の設計士と2人の女性職員が共に働くようになりました。神様は大手企業がうらやましくない事業になるように恵みをくださいます。この多くの委員を連れて一人で事業を立ち上げるには資金が足りないのを知っておられ神様がその後輩を同業者で予備してくださいました。神様は様々な助けを与えてくださり、創業して万3年ぶりに今設計士が職員の二倍に増えました。

20年間、主日礼拝だけ参席して15年間近くに奉仕を休んでいた旦那が自ら聖歌隊で奉仕して、毎日聖書を読んで祈って賛美を歌っています。旦那も教会中心の生活をするようにと2人の娘と長い間祈りましたが、その希望が成し遂げられました。旦那は去年平信徒聖書学校に続いて聖書大学家庭まで卒業して平日礼拝も熱心に山積して礼拝中心の生活をしています。旦那の事業が私たちの教会の目標である一千教会設立と福音伝道に大きく用いらるのを切に願い、このすべてを成し遂げた神様に栄光をささげます。

“わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。“主に結ばれているならば自分たちの苦労が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。”（コリント信徒への手紙一　15：58）アーメン

［信仰コラム］　私は道であり、真理であり、命である

”イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。”

この世で私達が接する文と言葉の中で聖書の御言葉より貴重な意味と価値を持ったことがなく、より大きい影響を及ぼすことがありません。しかし、聖書の節の中にもより深奥で重大な節があります。短いがその中に福音が要約されており、その御言葉の神秘で尊い意味は全て計ることができません。そして、その御言葉が及ぼす影響力も同じです。重要なヨハネによる福音書 14 章 6 節の御言葉を調べてみましょう。

第一に、イエス様が”私は道である”と言われました。道はある目的する所に便利で安全に、早く到達することができるようにする役割をします。道は方法や手段を意味して、行動方向と指針、目標を意味し、問題を解決する方策を意味します。”私が道である”というイエス様の御言葉にこのような意味が全て含まれています。

イエス様は私達が天国に行く手段と方法でおられます。罪人が父親でおられる神様に、天国に行く手段と方法はイエスキリストだけありません。イエス様は聖徒達が生きていく方向と指針と目標でおられます。人生を誠に良く生きるためにはイエスキリストを喜ばせて、キリストが尊くなるようにして、キリストを代わりなく愛しながら生きるべきです。また、イエス様は聖徒達が当面する問題に対する解決策でおられます。

第二、イエス様が”私は真理である”と言われました。”真理が何であるか？”この質問は多くの人々が持っている質問です。しかし、数多くの人が真理を愛して真理を探究するとしながら実は、真理を厭って真理から遠く離れて生きています。その理由は真理が何であるか知らないからです。ヨハネによる福音書 1 章 17 節に”律法はモーセをとおして与えられ、めぐみとまことは、イエス.キリストをとおしてきたのである。”と記録されています。イエスキリストによる聖書の御言葉が全て真実だということが証明されました。イエスキリストの誕生と死と復活が聖書に記録された通りにできたからです。真理でおられるイエスキリストの御言葉を信じて従う人は真理の上に家を立てるようになります。真理でおられるイエス様の御言葉を信じて従いながら生活する人はこの世の人々が見るに失敗した者ようであっても成功した者です。愚かな者のようであっても知恵のある人です。

第三、イエス様が”私は命である”と言われました。人は生まれる時から罪人として生まれ、罪人の魂は神様の命から離れています。その魂の実状は過ちと罪で死んだ状態です。しかし、命でおられるイエス様を迎接すると直ちにとこしえの命を得ます。とこしえの命は量的な概念ではなく質的な概念です。命の延長を話す時間の概念で測定できる命ではなく、神様の永遠な現在の中に生きる命です。死は肉親の生命が終わることに過ぎなくとこしえの命には何等の変化を与えられません。命でおられるイエス様は彼を信じる私達の肉体まで将来復活させて永遠に生きるようにしてくれます。

命でおられるイエスキリストを信じて迎接した人々は毎日豊かな生命の躍動を体験しながら生きることができます。イエス様の生命が私達の死ぬ肉体の中に現れることによって私達が神癒の恵みを経験しながら生きることができます。イエス様の生命が私達の心に現れると心配、不安、ひしげが退けられて喜び、平安、望み、大胆が据えるようになります。イエス様の生命は私達の生活を蘇生させます。沈滞された家庭の雰囲気を明るく変化させます。衰退する事業が活気を持つようになります。

人がこの世で生きる間に富貴と長寿を享受して立志伝中の人物になり、著名人士録に名前を残すとしてもイエスキリストを信じないと極めて気の毒な人です。その理由はイエスキリストだけが道であり、真理であり、命であるからです。イエスキリストを信じない生活は道を失って迷う生活であり、虚無と無意味の生活であり、遂に破滅に至ってしまいます。”わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。”イエス様のこの御言葉が皆さんに喜びと感謝、幸福で充満にさせる御言葉がなるように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

大きいで驚きべきなさいわい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

儒教で言う 5 つのさいわいは、壽、富、康寧、攸好德、考終命です。 壽は長く生きることで富は多くの財物を所有するものであり 康寧は、体が健康で心が安らかなものであり攸好德はを道德を守ることを楽しみのことであり、 考終命は自分の命を終わるまで安らかに死ぬことです。この 5 つのさいわいは、すべての世俗的なものです。聖書にも、この世での安寧と繁栄を神から与えられたさいわいと言われています
しかし、このようなことが、イエス・キリストを信じて仕えるのに害になると、さいわいではなく、呪いになります。一方、苦難と逆境と欠乏があっても変わらず、主を仕える人は、最終的には、そのすべてのことがさいわいになります。
今日は新約聖書ヨハネの黙示録に「幸いである」と記録された七つの章に記録されている「5 つのさいわい″を見てみましょう

第一は、「預言の言葉を読む者と聞く者と守る者たちが幸いである。」としました。

ヨハネの黙示録 1 章 3 節に**「この 預言の 言葉を 朗讀する 者と， これを 聞いて， その中に 書かれていることを 守る 者たちとは，さいわいである． 時が 近づいているからである」**としました。ここで言う「預言の言葉」は、狭い意味では、黙示録に記録された言葉を指すが、広い意味では、聖書の全体を指します。神の言葉である聖書を読む者と聞く者と守る者たちがさいわいであるとしました
聖書に記録された言葉を読んでいる人がさいわいがあります。南米で先住民の宣教をしている宣教師がそこのある婦人から聞いた話です。その奥さんは文を読むことができなくて雇用した人に、毎日聖書を読んでもらいました。すると、聖書を読んでくれたその人がイエスを信じるようになってしました。このごろの、私たちは聖書を簡単に所有することができ、いつでも読むことができますので、本当にありがたく嬉しいことです。貴重な神の言葉が記録された聖書を読む人は、幸いであります
聖書に記録された言葉を聞く人がさいわいであります。今日の教会では、説教者があって聖書を詳しく解いて説明してくれます。心を開いて説教を聞くと霊的な信仰を得て信仰が育つようになります。聖書に記録された神の言葉を聞く人がさいわいであります
聖書に記録された言葉に従って行う人々がさいわいであります。神の言葉は、これを読んで、聞く者に従順を要求します。私たちの意識と言語と生活の方式がすべて神の言葉にすっかり沈みにしなければなりません。そして、聖書的な考え方をして、聖書の言語をいい、聖書的な方法で住んでいる人がならなければなりません。これらの人がさいわいであります

第二は、「今から以後に主にあって死ぬ者は幸いである」としました。

人は誰でも、なるべく健康に生きて、長寿して安らか終焉することを望みます。この死を迎える人を見たときに幸いな人と言います。
しかし、実際には幸いでの死か、不幸な死かを分かれるのは、主イエス・キリストにあっての死か、外の死かということにかかっています。
黙示録 14 章 13 節にこう書いています**「またわたしは， 天からの 聲がこう 言うのを 聞いた， 「書きしるせ， 『今から 後， 主にあって 死ぬ 死人はさいわいである 』 御靈も言う， 「しかり， 彼らはその 勞苦を 解かれて 休み， そのわざは 彼らについていく 」**
「主にあっての死」とは二つの意味を持っています
1）「彼らは苦労を止まり終わて安息する」としました。イエスを信じて受け入れた人々に、世が与えるとは別の喜びと平安を与え、心が休みを与えます。そして、最終的には死の向こう側で永遠の安息を得るようにします。
2）「私達が行ったことのためだ」としました。この世で生きる間、主の仕事に励んで苦労のしたがって賞賛と冠と報いを受けることになります。
主の中にいる人に死とは永遠の安息に導く関門であり、賞賛と冠と賞をくださる神、主の前に進む過程に過ぎません。だから、イエス・キリストを信じて仕えて生きながら死ぬ人は幸いであります

第三は、「誰でも目を覚まし、自分の服を守る裸で通わず、自分の恥を見ない者が幸いである」としました。

ヨハネの黙示録 16 章 15 節に**「見よ， わたしは 盜人のように 來る． 裸のままで 歩かないように， また， 裸の 恥を 見られないように， 目をさまし 着物を 身に 着けている者は， さいわいである」**と記されています。
22 章 14 節には、**「いのちの 木にあずかる 特權を 与えられ， また 門をとおって 都にはいるために， 自分の 着物を 洗う 者たちは，さいわいである」**と記録されました
ここで「服と衣」は、イエス・キリストによって得る義と清潔を意味します。私たちは、イエス・キリストの贖いの恵み、血の能力だけ頼る必要があります。イエス・キリストによる義の服を着た人たちは、新しいエルサレムの都を通して命の木がある都の中に入ることになります。ですから、イエス・キリストが流された贖いの血で洗われて義の服を着た人たちがさいわいであります

第四は、「小羊の婚宴に招かれた者が幸いである」としました。

黙示録 19 章 9 節に記録されたことは**「 それから， 御使はわたしに 言った， 「書きしるせ．小羊の 婚宴に 招かれた 者は， さいわいである 」 またわたしに 言った，「これらは，神の 眞實の 言葉である 」**としました。小羊の婚宴というのはイエスを信じてあがないされた聖徒たち、イエスキリストと共に永遠の真の喜びを享受されていることを比喩的に表現した言葉です。聖徒たちの天国の生活は喜びの日々となります。そこには別れがなく死亡がなく悲しむことや泣くすることができません。
病気がなく、呪いがなく、夜がありません。泣くことや忌まわしいことがなく偽りを言う者がなく、悪魔もありません。（ 黙示録 21：4,27、22：3,5）聖徒たちは小羊の婚宴に招かれたからさいわいがあります

第五は、「第一の復活に参加する者は、幸いである」としました。

聖書には、復活と死がそれぞれ 2 種類があるという事実を明らかにしています。聖徒たちの復活は「第一の復活、あるいは生命の復活」と呼びます。未信者の復活は、「審判の復活」と呼びます。イエスの再臨の時に聖徒たちは命の復活をして未信者は審判の復活をすることになります。死亡は第一の死と第二の死があり、聖徒たちは 第一の死亡のみです。
第二の死は、未信者が裁きの復活をして最後の裁きを受けてわずか硫黄で燃える池に投げられることを意味します。**「 また， 死んでいた者が， 大いなる 者も 小さき 者も 共に，御座の 前に 立っているのが 見えた． かずかずの 書物が 開かれたが， もう 一つの 書物が 開かれた． これはいのちの 書であった．死人はそのしわざに 応じ， この 書物に 書かれていることにしたがって， さばかれた．海はその 中にいる 死人を 出し， 死も 黄泉もその 中にいる 死人を 出し， そして，おのおのそのしわざに 応じて， さばきを 受けた． それから， 死も 黄泉も 火の 池に 投げ 込まれた． この 火の 池が 第二の 死である」**（黙示録 20：12～14）としました
未信者は彼らの行為を記録した本を根拠に、自分の行為のとおり審判を受けて、火の池に投げ込まれます。イエス・キリストの血は、イエス・キリストを信じる人々のすべての罪を 100 パーセント、完全に清めするための聖徒たちは第二の死に至る審判を受けません。その他の本である命の書には、救われた人々の名前が記録されて、彼らは命の復活をすることになります。いのちの書に名前がない人に対して記録されることを**「このいのちの 書に 名がしるされていない 者はみな， 火の 池に 投げ込まれる」**（黙示録 20:15）しました
第一の復活、すなわち生命の復活に参加する人々のさいわいの内容が黙示録 20 章 6 節に記録されています。**「 この 第一の 復活にあずかる 者は， さいわいな 者であり， また 聖なる 者である． この 人たちに 対しては，第二の 死はなんの 力もない． 彼らは 神とキリスト との 祭司となり， キリスト と 共に 千年の 間， 支配する」**としました。その中の一つ、第二の死は、それらを治める権威がないから審判を受け、火の池に投げ込まれる心配をする必要がありません。もう一つは、彼らは神とイエスキリストの祭司となり、千年の間キリストと共に支配することになります。第一の復活に参加した者たちは、祭司のように、神との交わりを分かち合うでしょう。そして王権を所有してキリストと共に千年の間に統治することになるでしょう。したがって、第一の復活に参加することになる人は、幸いであります

イエス・キリストを信じる者が享受するさいわいが何かを啓示された 5 つのさいわいを列挙して見てみました。これらのさいわいは、現世にある何でも比べるのができない極めて大きなさいわいです。聖徒の皆さんは、イエスキリストにあってこのように大きく驚くべきなさいわいを受けたことのために、主なる神への賛美を申し上げ、感謝して喜んで下さい 。